

管楽合奏は楽しい会？

No.60 “ドヴォルザークのセレナードを核に”

2025年5月31日(土)14時00分開演 深川江戸資料館小劇場

E.ハルトマン (丁/1836~1898)

「セレナード」全4楽章

(Fl)信澤 (Ob)土屋 (Cl)庄子/黒木 (Fg)森川/山田 (Hn)萩原/余田 (Vc)瀬川 (Kb)安田

ドヴォルザーク (捷/1841~1904)

「スラブ舞曲作品46-2」

(Fl)信澤 (Ob)山本/橋原 (Cl)黒木/向山 (Fg)阿部/尾作 (Hn)萩原/余田 (Kb)安田

ゲーヴィ (仏/1819~1898)

「ゴロワーズ組曲」全4曲

(Fl)岡添 (Ob)土屋/橋原 (Cl)兼氏/向山 (Fg)大石/山田 (Hn)菅川/市原

--- Intermission ---

ガールマン (蘭/1914~1986)

「序奏とブルレスク」

(Fl)岡添 (Ob & Cor lg.)土屋 (Ob)橋原(Cl)兼氏/黒木 (Fg)大石/阿部 (Kfg)山田 (Hn)林田/市原

ドヴォルザーク (捷/1841~1904)

「管楽の為のセレナード」全4楽章

(Ob)橋原/山本/(Cl)兼氏/庄子 (Fg)大石/阿部 (Kfg)山田 (Hn)菅川/余田/林田 (Vc)瀬川 (Kb)安田

出演者の簡単なプロフィール(楽器別50音順)

(Fg & Cond + MC)森川 一 (もりかわ はしめ)

法政大学入学後ファゴットを始め、菅原暁氏に師事。同校卒業後、東京藝大別科で三田平八郎氏に、その後元ハンブルク州立劇場奏者フリッツ・ヘンカー氏に師事する。フリーの奏者として活動し今日に至る。78年より毎年ソロ及び室内楽の演奏会を開催。他にオケのトレーナー、文筆など多岐に渡る活動を行う。「管楽合奏は楽しい会？」及び「フルスヴァルト合奏団」「森川室内楽」「アンサンブル松戸ハイデルベルク」など主宰。リード製作者としても高い評価を得ており「森川ファゴット&リード倶楽部」を運営している。ファゴット演奏者倶楽部メンバー代表

(Fl & Cond)岡添 隆 (おかぞえ たかし) ハルトマンとスラブ舞曲を指揮

京都大学音楽部交響楽団でフルート奏者、学生指揮者として活躍する。フルートを佐々木伸浩氏、持田洋氏に、フラウト・トラヴェルソを森本薫氏に師事。普段は某メーカーの会社員として東大の社会連携講座と共同研究を行うなど、研究活動を行っている。研究と音楽の二刀流は成り立つ、が信条。アンサンブル・メゾンに所属

(Fl)信澤達也 (のぶさわ たつや) 当団アンコール曲の専任編曲者

高校1年のとき隣席の友人の勧めでフルートを始める。東京大学音楽部管弦楽団に入団し磯辺庄平氏に師事、卒業後は東京アマデウス管弦楽団で活動。鉄鋼メーカーや特許調査機関勤務を経て、2024年3月にサラリーマン生活に一旦終止符を打ったが2025年4月、呼び出されて前職場に出戻った。オケ、管楽合奏(以上フルート)、ビッグバンド、トロンボーンアンサンブル(以上バス・トロンボーン)を軸に活動中。使用楽器：パウエル19.5K

(Ob)橋原千佳子 (くすはら ちかこ)

中学からオーボエを始め、藤原勲氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団及びアンサンブル・メゾンに所属。週末は存分に音楽を楽しみ、平日はまちづくりの仕事に従事する日々。

(Ob & Cor lg.)土屋英晃 (つちや ひであき)

東京都出身。14歳よりオーボエを始める。桐朋学園大学音楽学部、同卒業演奏会出演。同大研究科修了。第12回別府アルグリッチ音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2011にオーケストラメンバーとして出演。2009年、市川市文化振興財団第22回新人演奏家コンクール管楽器部門で優秀賞を受け新人演奏会に出演するなど同財団主催の演奏会に多数出演。コンセール・ヴィヴァン第29回新人オーディション合格し優秀賞を得る。オーボエを藤村理子、宮本文昭、嶋崎耕三、浦丈彦の各氏に、また室内楽を白尾彰、岡本正之の各氏に師事。洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団、洗足学園音楽大学演奏要員を経て、現在はensemble le creuset、市川文化振興財団フレッシュアーティストバンクに所属、柏市音楽家協会会員。

(Ob)山本悦子 (やまもと えつこ)

川崎市出身。中学校の吹奏楽部でオーボエを始め、専修大学フィルハーモニー管弦楽団でオーケストラを始める。現在は大田区のオーケストラに所属。勤務先の大学病院では広報やロビーコンサートの担当をしている。自他ともに認める無類のパンダ好きで、シャンシャンとレイレイの名付け親の一人である。

(Cl)兼氏規雄 (かねうじ のりお)

東京藝術大学附属高校を経て同大学卒業。ミュンヘン国立音楽大学留学。NHK洋楽オーディション合格。NHK「午後のリサイタル」等に出演。水戸芸術館「公募企画シリーズ」の第1回出演者に選出されリサイタルを開催。08年、東京オペラシティでのリサイタルについて、「音楽の友」誌上で絶賛される。水戸芸術館主催の「茨城の名手・名歌手たち」オーディション審査員、「茨城の演奏家による演奏会企画」選考委員、茨城県の新人演奏会出演オーディション審査員、新人賞選考委員。また、日本クラシック音楽コンクールの全国大会木管楽器部門審査員も務める。現在、上野学園大学音楽学部、茨城大学教育学部、大東文化大学文学部講師、水戸ゾリス代表。フルスヴァルト合奏団同人

(Cl)黒木彩香 (くろき あやか) 初参加!

中学校のオーケストラ部でクラリネットを始める。これまでに、東京大学音楽部管弦楽団、化学オーケストラ(Orchestra Chimica)、オーケストラHA' MONなどで活動し、現在は東京アマデウス管弦楽団に所属。クラリネットを平林邦男氏に師事。平日は、科学技術・研究開発に携わる方々を応援する仕事をしている。

(Cl)庄子穂奈美 (しょうじ ほなみ)

1990年生まれ、宮城県出身。中学時代の吹奏楽部にてクラリネットを始め、高校からレッスンに通い始める。クラリネットを千石進、堀川豊彦の両氏に、室内楽を太田茂氏に 師事。昭和音楽大学短期大学部卒業。

(Cl)向山尚志 (むこうやま たかし)

12歳よりクラリネットを始める。東京大学入学と同時に音楽部管弦楽団に所属、この間にクラリネットを故・浜中浩一氏ほかに師事。1974～2003年まで東京アマデウス管弦楽団に所属。2002～03年に当会に参加後、仕事の都合で東京を離れたが、2017年の復帰して以降は全て参加している。

(Fg)阿部憲一 (あべ けんいち)

京都大学交響楽団で活躍する。ファゴットを光永武夫、森正彦、日名弘見の各氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、アンサンブル・メゾンで演奏活動。大手化学会社に42年間勤務し2022年に退職。その後ファゴットを福士マリ予氏に師事し基礎からのやり直しを始め、加えて子供の頃に手掛けていたピアノ、リコーダーにも手を広げ、音楽を中心に毎日忙しくしている。それ以外では健康寿命を延ばすための筋トレや下手なゴルフ、更に家事全般と近くに住む孫の世話などして引退生活を満喫(?)している。ファゴット演奏者倶楽部メンバー。

(Fg)尾作拓郎 (おさく たくろう)

神奈川県出身。法政二高吹奏楽部にてファゴットを始め、法政大学交響楽団を経て、市民オーケストラなどで活動。同大学卒業後はシステムエンジニアとして大規模金融システムの開発をする傍ら週末に積極的に演奏活動を行っている。ファゴット演奏者倶楽部メンバー。

(Fg)大石龍巳 (おおいし たつみ)

京都大学交響楽団で活躍する。阿部氏の後輩にあたる。現在はアンサンブル・メゾン、管楽合奏は楽しい会?で演奏活動中。社会人になってからずっと横浜のまちづくりに携わってきた。エキゾチックな港町横浜に是非お出かけください。ファゴット演奏者倶楽部メンバー

(Fg & Kfg)山田祐理 (やまだ ゆうり)

10歳まではヴァイオリン、中学でユーフォonium。法政二高吹奏楽部でファゴットを始め、その後法政大学交響楽団、ジュネス等で演奏。ファゴットを森川一氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、ナズドラヴィ・フィルハーモニーで演奏するほか、エキストラとして数多くのオケに出演。背にはコントラ、手にはファゴットを持ち東奔西走している。普段は大学教員(物理化学)として働いている。ファゴット演奏者倶楽部メンバー

(Hn)市原秀紀 (いちばら ひでき)

東京大学音楽部管弦楽団で活動し、その間故・伊藤泰世氏に師事。博士課程修了後紆余曲折を経て現在は高分子の研究開発で忙殺されつつ、日曜音楽家としてホルンを嗜む。現在は脇屋俊介、井上華の両氏に師事しながら東京アマデウス管弦楽団を中心に大編成のオーケストラで活動。それ以外にもアマデウスのメンバーと定期的に木管五重奏の演奏会を開いたり、ホルンアンサンブル”Strudel Hornisten”を主宰している。

(Hn)林田朋子 (はやしだ ともこ)

中学、高校の吹奏楽部を経て、社会人になってからオーケストラを始める。森雅彦氏に師事。シューマンの4本のホルンのためのコンチェルトシュトックのソロを2度演奏する機会を得、カテナ・ヤヴールコヴァ氏と日橋辰朗氏(読響)との共演が生涯の宝。現在は市川交響楽団等に所属し、オーケストラや室内楽を楽しんでいる。

(Hn)萩原裕人 (はぎわら ひろと)

中学からホルンを始め、大学では東京大学音楽部管弦楽団で活動し、須山芳博氏などの指導を仰ぐ。卒業後も、転勤先に楽器を携えて現地の団体に参加するなど精力的に活動。現在は本会のほか、東京アマデウス管弦楽団、プラスアンサンブルセレスト等に参加しており、週末はつくば市の自宅からせせせと上京している。

(Hn)皆川理恵 (みながわ りえ)

9歳よりホルンを始める。東京音楽大学音楽学部ホルン科卒業。守山光三氏、冨成裕一、湯川研一の各氏に師事。木管五重奏団アンサンブル・アクアのメンバー。ヤマノミュージックサロン 柏 講師。またフリー奏者としても活動中

(Hn)余田尚史 (よでん なおふみ)

北海道札幌市出身。ダルビッシュ有と同じ年。中学からホルンを始め、北海道札幌西高等学校、京都大学でもオーケストラでホルンを続ける。大学では小山亮氏に師事する。現在は会社勤務の傍ら新日本交響楽団等に所属。練習の合間においしいカレーを食べに行くのが好き。


(Vc)瀬川 進 (せがわ すずむ)賛助出演

東京水産大学(現・海洋大学)管弦楽団でチェロを始め、菊地俊一氏に師事。その後九大フィル、横須賀を経てギェンターフィルに所属。同大学教授時代のテーマはイカ・タコの生理生態探求。現在はのんびりと音楽を楽しむ後期高齢者として活動。東京海洋大学名誉教授。

(Kb)安田 文 (やすだ ぶん)賛助出演

北海道白老町出身。桐朋学園大学研究生2017年修了。在学中にオーディションに合格し、2016年のセイジオザワ松本フェスティバルに出演。故 小澤征爾氏の指導を受ける。その後フリーランス奏者として全国のプロオーケストラに賛助出演。2019年にプロを引退。現在は某IT企業に勤務。コントラバスを助川龍、鈴木祐治、故 西田直文の各氏に師事。2024年より幕張フィルハーモニー管弦楽団所属。

本日はご来駕有り難うございます。解説者(森川)が出番なので、最初の曲の解説を少し致します。

ハルトマンはデンマークの作曲家なのですが、他のデンマークの曲を知りませんので、この国らしい作品かどうかは不明です。この曲にコントラバスとチェロが入り、低音の充実を図っている事は特筆すべきでしょう。管楽器は低域に弦楽器の様な豊かな響きがありません。後のドヴォルザークでも同様なのですが、両曲共に弦を入れる事で豊かな響きが図られています。特筆すべきは、という簡単なモチーフで作られているところです。以前にやったラハナーもそうですが、ドイツ系の音楽ではベートーヴェンの運命の様にモチーフを伸ばしたり縮めたり、変化させたりして音楽を作るのが良しとされています。これが建築に例えられる由縁です。従って小さい交響曲と称しても良いでしょう。特に4楽章は分かり易いので、耳を傾けて頂きたいと存じます。それでは、開演まで暫しお待ち下さい。

次回は2026年5月30日(土)14時開演 北とぴあ・ペガサスホール(王子駅前)

演奏会の感想など、宜しければEメールでお聞かせ下さい。mail:heckelfg@infoseek.jp